

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (1) 単元構想

材の価値

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (1) 単元構想

子どもの実態  
教師の願い

3分の1ほどの子どもが  
地域行事に参加していない

地域の方と交流  
笠間のまちの行事に参加

自分たちの生活をより楽しく  
しようとしてほしい

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (1) 単元構想

内容 (3)  
地域と生活

地域の方々と交流

笠間のまちを大切にしている  
人の存在に気付く

地域や地域の人に  
愛着をもつ

地域の一員として

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (1) 単元構想

材の価値

子どもの実態  
教師の願い

内容 (3)  
地域と生活

第1次  
地域の人と  
出会う

第2次  
Cさんの思い  
に迫る

第3次  
交流会を  
計画し、開く

次単元

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第1次  
地域の人と  
出会う

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第1次  
地域の人と  
出会う

盆踊り大会に参加していない  
子どもの思いも高めたい

また踊りたい!

単元を立ちあげるにあたって、大事にしたことは3つあります。

一つ目は★材の価値分析です。笠間のまちには7月～10月にかけてたくさんのお祭りがあります。また、そこに携わる地域の方には熱い思いをもっている方が多いです。そう考えた時に、材を「笠間のまち」と設定し、対象を「Cさん」と「うらら会のみなさん」に設定すれば、子どもたちの学びは豊かになるのではないかと考えました。

Cさんは、日ごろから積極的に子どもたちに関わってくださっており、町内会長やゆうわ館の管理をしていたり、盆踊り大会を計画したりしています。笠間のまちや、地域のつながりを大切にしている方です。

うらら会のみなさんは、月に2回、ゆうわ館で盆踊りの活動をしています。

Cさんやゆうわ会のみなさんと関わることを通して、子どもたちは盆踊りに目をつけるのではないかと考えました。そして、盆踊りを通して、地域の方々と交流することで、地域の方と活動する楽しさを感じたり、自分も地域の一人としてできることを考えたりすることができるのではないかと考えました。

二つ目は★子どもの実態と教師の願いです、子どもの実態としては、3分の1ほどの子どもが地域行事に参加していない状況でした。わたしとしては、地域の方と交流したり、笠間のまちの行事に参加したりすることで、自分たちの生活をより楽しくしようとしてほしいと思いました。まちたんけんで出会ったCさんや盆踊りに興味をもつことを通して教師の願いにも迫れるのではないかと考えました。

三つ目は★生活科の内容です。内容については、(3) 地域と生活です。Cさんやうらら会のみなさんと踊ったり、話したり、インタビューしたりする地域の方々と交流を通して、笠間のまちを大切にすることに気付いたり、地域や地域の人に愛着をもったり、地域の一員として自分たちにできることを考えたりしてほしいと考えました。

以上を踏まえて単元を構成しました。★第1次ではCさんやうらら会の方と出会い、第2次ではCさんの思いに迫る、第3次では交流会を計画し、開くという流れです。まだ実践中の提案になりますので、今回の提案では第2次までの話とさせていただきます。

ここからは、活動の実際です。教師が事前をお願いをしておき、まちたんけんで、Cさんやうらら会のみなさんに出会いました。「炭坑節を一緒に踊らない？」と声をかけて頂き、子どもたちはノリノリで炭坑節と一緒に踊りました。帰り道や学校に着いてからも踊っていた姿が印象的でした。夏休みにお祭りがあると誘われたことから、夏休みの盆踊り大会に20人くらいの子どもの参加し、友達やうらら会の方と一緒に盆踊りを踊りました。

夏休み明け、盆踊り大会に参加していた子どもたちは、その時の様子を口々に話していました。ここで、「盆踊り大会に参加していない子どもの思いも高めたい」と思い、振り返りの時間を設定しました。この時間を通して、参加していなかった子どもも「僕たちもまた踊りたい」と思うようになっていきました。こうして、学級みんなの思いが、「また踊りたい」と高まっていきました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第2次  
Cさんの思いに迫る

Cさんから、手紙が届きました。その手紙の中には、「お礼の手紙を書きました。」とあり、「どうしてお礼なのかな？お礼するのは、僕たちのはずなのに」と疑問をもったり、「Cさんはおまつりで1番たのしいことは、おもちゃやおかしだと思わないのは、なんてかな」と疑問をもったりしていました。

もっと盆踊りがしたい！という流れになるのかと思っていましたが、そうではなく、子どもたちの興味は「Cさん」に向いたのを感じました。

「きっとCさんは、盆踊りにみんなが来てくれたことが嬉しかったんだよ。そのお礼じゃないかな？」「みんなで踊れることが1番だと思っているのかもしれないね」と予想を立てました。Cさんに聞いてみないと分からないから聞いてみたいということで、Cさんにインタビューをしに行きました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第2次  
Cさんの思いに迫る

みんなが来てくれたことが嬉しかったんだよ。一生懸命踊ってくれてありがとう。

お祭りの本当の意味は、いろいろな人と友達になること。大勢でおみこしや踊りを一生懸命すること。

住んでいた人たちの心をつにしようとしたんだよ。

するとCさんは「みんなが来てくれたことが嬉しかったんだよ。一生懸命踊ってくれてありがとう」「お祭りの本当の意味は、いろいろな人と友達になること。大勢でおみこしや踊りを一生懸命すること。」「住んでいた人たちの心をつにしようとしたんだよ」と教えてくれました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第2次  
Cさんの思いに迫る

Cさんにインタビューしたり、一緒に給食を食べたりして、少しずつ関わりが深くなってきました。子どもたちはCさんについて知るにつれ、どんどんCさんのことが好きになっていきました。そして、「またCさんと踊りたい」とここでようやく子どもたちの思いが「盆踊り」に向かいました。

子どもたちは、自分たちでCさんと会う約束を取り付けました。

そこで、9月13日、Cさんとうらら会のみなさんと盆踊りの交流を行うことが決定しました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第2次  
Cさんの思いに迫る

これが、9月13日に行われた交流会の様子です。みんな笑顔で楽しんでいます。この交流は2時間かけて行いました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
1 - (2) 授業づくり

第2次  
Cさんの思いに迫る

期待する姿

Cさんうらら会の方々との交流を振り返ることを通して、うらら会の方のあたたかさや気持ちに気づき、Cさんとうらら会の方々の思いが同じであると実感する姿

後日、13日に行った交流を振り返る時間をとりました。ここで、教師としてこんな姿を期待したいと考えました。

ここで、みなさんに一緒に考えて頂きたいのが、この姿に迫るための教師の手立てについてです。今回は、私もたくさんを勉強させて頂きたいので、3つの段階を設定させて頂き、それぞれの段階にあった手立てを考えて頂ければと思います。

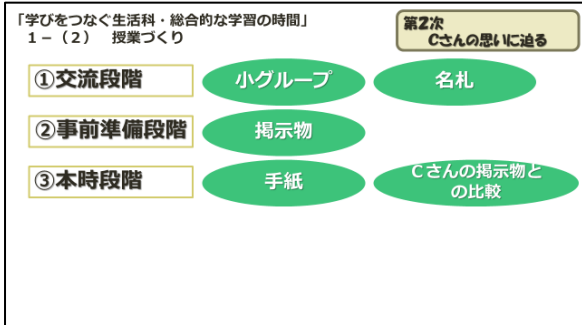
1つ目は「交流段階」で、9月13日に行われた2時間の交流をさします。この時にどんな手立てをうってれば、この期待する姿に迫ることができるでしょうか。

2つ目は「事前準備段階」で、9月13日の放課後からの教材研究の時間をさします。本時に向けてどのような準備をしておけば、この期待する姿に迫ることができるでしょうか。

3つ目は「本時段階」で、実際に振り返りを行う本時をさします。本時でどのような手立てを打てば、この期待する姿に迫ることができるでしょうか。

みなさんで考えて頂ければと思います。よろしく願います。

青枠は司会者でもいいですか？



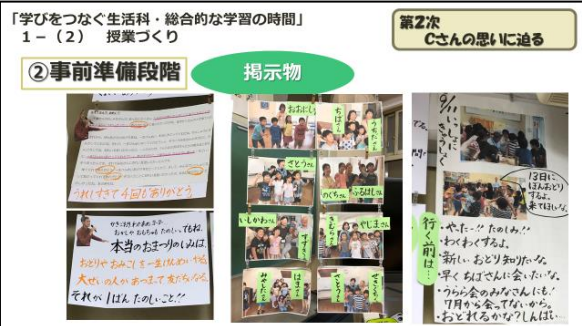
ここからはわたしが実際にうった手立てを紹介させていただきます。

期待する姿に迫るために、たくさんの手立てを打ちましたが、ここでは時間の関係上いくつかの手立てを紹介させていただきます。

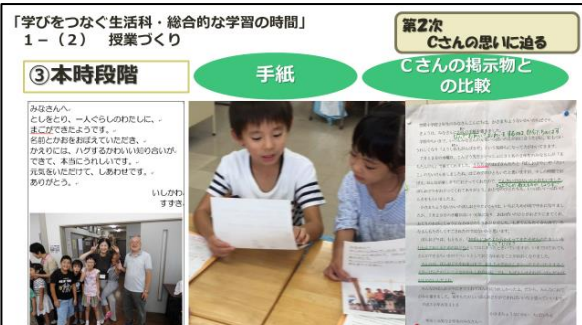
交流段階では、小グループと名札の手立て、事前準備段階では掲示物の手立て、本時段階では手紙とCさんの掲示物との比較の手立てを打ちました。詳しく話していきます。



まず、交流段階での手立てです。一人ひとりと密に関われるように、子ども4人のグループに対して、うらら会の方2人に入ってもらい、小グループでの活動を行うようにしました。その際には名札を付けてもらい、子どもたちが名前を呼べるようにしました。小グループでの自己紹介や踊りの練習を通して、前回初めて関わったときよりも仲良くなれるようにしました。



次に、事前準備段階での手立てです。うらら会の方の顔と名前が一致するように、名前と写真を掲示しておきました。また、うらら会の方の気持ちと、自分たちの気持ちが出揃ったと分かるように、子どもたちが言っていた交流に行く前の気持ちを書いて掲示しておきました。Cさんの思いと、うらら会のみなさんの思いが同じであることも分かるように、Cさんにインタビューしたときの答えを書いて掲示していました。



最後に本時段階での手立てです。子どもたちが、うらら会のみなさんのあたたかさや、気持ちに気付けるように、うらら会のみなさんから手紙が届くようにしました。盆踊りの技術的な話ではなく、来てくれたことが嬉しいという気持ちや、一緒に踊れたことが楽しいという気持ちを書いていただくようお願いしていました。交流のときのグループごとに手紙をもらえるようにして、一人1枚手紙をもらえたことで、より親しみがもてるようにしました。また、Cさんとうらら会の方の思いが同じであることに気付けるように、Cさんからもらった手紙を拡大して掲示しておき、比較できるようにしていました。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
2 成果と課題

教師の手立てに対する成果と課題

<成果>

- ・小グループの設定
- ・動画の活用
- ・うらら会の方からの手紙

教師の手立てに対する成果と課題を話します。まず、成果についてです。うらら会のみなさんと交流する時から小グループを設定していたことで、本時では～さんが言っていた、～さんがここにこだったなどうらら会のみなさんの名前が飛び交っていました。手紙をもらったことで、子どもたちも返事を書きました。その中に「Oさんとうらら会の人たちと一緒におどったから、元気が出たよ。まるで、友だちになったと思ったよ」「とくに、うらら会のおばさんたちがえがおだったので、たのしかったです」などの言葉がありました。このことから、うらら会のみなさんのあたたかさや気持ちに気付けたのではないかと思います。

「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」  
2 成果と課題

教師の手立てに対する成果と課題

<課題>

- ・声かけ
- ・問い返し
- ・価値付け

次に、課題についてです。うらら会のみなさんの手紙の内容を全体で共有したときに「全部ありがとうって書いてある！」という子の発言から「Cさんと一緒だ！」という発言がありました。どちらにも「ありがとう」と書いてある事実には気付けたが、その先にある思いには気付いていませんでした。そこで「どんなところが同じなのかな?」「なんで同じなのかな?」と問い返せば、Cさんの思いやうらら会の方々の思いに、より迫っていくこともできたのかもしれませんが、また、「Cさんは見ていただけ」という声を全体に広げて、「見ていただけなのに、なんで楽しかったのかな?」と投げかけていたら、Cさんの思いに気付くことができたのではないかと思います。